

オニ波闘争
オニ報

1031

11.1

成田拠点を含み、全支部・全組合員が減産B行動に総決起!

一〇月三十一日、各支部地上勤務者による減産B行動(始業時)をもって動労千葉は、三里塚二期工事阻止・ジェット増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉碎へ向けた第二波の闘いへと突入した。10・21・22の第一波の闘いをき然とした体制をもって貫徹し、今新たな決意のもと、権力、当局、動労「本部」革マル等ありとあらゆる敵対・妨害をうちくだいて断固たる決意のもと、第二波闘争に決起したのだ。

第一波の闘いを倍する第二波への高揚

成田運転区構内を埋め尽す七〇〇の部隊の力いっぱいのシュプレヒコールで集会は開始された。布施教宣部長の司会により進められた集会は冒頭、動労千葉関川委員長が闘争委員会を代表して挨拶に起った。

「10・22ストは、組織の大きな力をつくり出し、全国に大きな波紋を生んできている。これからも鉄路を武器に、当局の意のままにならない組合、それを一四〇〇の決起でつくり出していこう」との決意に満ちた挨拶に、全参加者は拍手でこれを確認した。

つづいて全戸動員をかちとり、一二〇名の結集をもってスト防衛・支援にかけつけた反対同盟から、北原事務局長、郡司婦人行動副隊長、内田行動隊長、熱田副行動隊長が、それぞれ挨拶にたち、「歴史的ストに決起した動労千葉を反対同盟は高く評価するとともに最後まで共に闘う」と熱い連帯のあいさつがなされた。

ジェット闘争支援共闘会議世話人の浅田光輝氏は、「一波、二波と闘いぬかれるこのジェット燃料阻止のストライキ闘争こそ、真に労働者の未来を切りひらく決定的な武器である。支援共闘会議は、最後まで支援防衛をやりぬく」と述べ、圧倒的な拍手で確認された。

支援にかけつけた数多くの労組からは代表して、全金本山、全通空港支部、全電通仙台中電分会の代表からそれぞれ挨拶をうけた。

牙を抜かれる労働運動の中で八〇年代に通用する自前の運動を!

―中野書記長・基調報告―

集会も佳境に入り、動労千葉の基調報告が中野書記長より提起された。

「10・22ストを決定して以来、大きな流動化をつくり出している。

今日表われてきている現象は、当局は弾圧をちらつかせ、動労「本部」反動集団に至っては、11

・1ストの貫徹に恐怖するが故に、スト破壊の策動に出てきている。

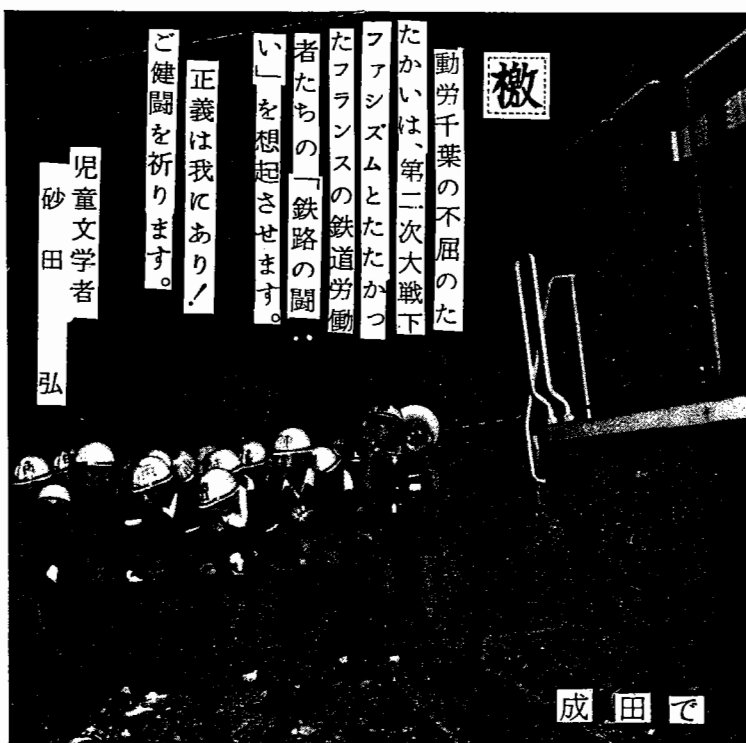
権力は、憎しみをあらわにし、弾圧・介入の機会を狙っている。

春闘以降、労働運動がごとく牙を抜かれ、屈服する中で、われわれは、八〇年代に通用する自前の労働運動をこの闘いを通してつくり上げてゆこう」と、まさにこの闘いの勝利の中にこそ労働運動の戦闘的再生の道があることを鮮明に打ち出した。

この後、多くのけき電紹介が行われ、決意表明に移った。

冒頭、11・1スト拠点の日暮(成田)支部長から「団結力と組織力を強固にし一歩ずつ前進してゆく、きびしい情勢下であろうと全国の仲間期待にこたえて闘い抜いてゆく」との決意をおしめない拍手が包んだ。続いて、各支部を代表して永田千葉転支部長、林木更津副支部長より、成田支部への激励と決意がそれぞれのべられた。

盛り上がる熱気の中で、最後に全参加者による力強い構内デモが行なわれ、組合歌合唱、団結ガンバローをもって前夜総決起集会を終了し、全員ただちに各支部毎の闘争体制に入ってしまった。



成田で

檄

動労千葉の不屈のたたかいは、第二次大戦下ファシズムとたたかつたフランスの鉄道労働者たちの「鉄路の闘い」を想起させます。
正義は我にあり!ご健闘を祈ります。

児童文学者 砂田 弘